【科目名】	理学療法評価法Ⅰ	専門分野(2単位)	【講師名】 山口 倫生(理学療法士):医療機関にて12年実務経験 熊谷 拓朱(理学療法士):医療機関にて5年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】第1学年 理学療法学科
【時間数】	60時間 (2時間 30回)		【時間帯】 9:00 ～12:10 (他時間割参照)

授業 内容・目標	理学療法における評価の意義・目的を理解し、検査・測定から治療までの一連の流れについて学習する。 それぞれの基本的な検査・測定について原則的な方法で安全・正確に実施する技術を身につける。 測定実施の際には、対象者への配慮を第一に、分かりやすい言葉で対象者に測定の説明と同意が行えるように心掛ける。
前提知識	骨・関節の名称及び動きに関する知識 対象者への配慮する意識
【実施形態】	講義(○) 演習(○) 実習( )
到達目標	理学療法の一連の流れを把握し、評価における意義と目的を理解する。 情報収集による医療面談時の話し方、立振る舞いなどを理解する。 バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定の実技を健常者にて測定出来るようになる。

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		30%	70%			
	実施時期		当科目終了時	当科目終了時			
	補足						
	関心・意欲			○			
	知識・理解		○	○			
	思考・推論		○				
	実践・表現			○			

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月16日	1	理学療法評価Ⅰ～Ⅳおよび評価実習までの概要説明 教科書確認(目次・各論・インデックス)	オリエンテーション 臨床評価実習～臨床実習	山口
4月20日	2	理学療法の流れ(評価の意義、目的と流れ)	評価(情報収集→整理→解釈→問題点の抽出→目標の設定)	山口
4月23日	3			山口
4月27日	4	姿勢と運動、体位、構え、運動方向、支持面と支持基底面 (医学用語を使用しての表現)(観察⇔記録)	姿勢の名称、支持面、支持基底面	山口
5月7日	5			山口
5月11日	6	バイタルサイン・測定(呼吸数、脈拍、血圧、その他)	脈拍測定、血圧測定の正常値および検査方法	山口
5月18日	7			山口
5月21日	8	形態測定:四肢長、周径(骨指標の触診、計測)	上肢長、棘果長、転子果長、上腕周径、大腿周径など	山口
5月25日	9			山口
5月28日	10			山口
6月1日	11	関節可動域測定(ROM－T)下肢	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	山口
6月4日	12			山口
6月8日	13			山口
6月15日	14			山口
6月18日	15	前半まとめと再確認		山口
6月22日	16	関節可動域測定(ROM-T)上肢	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	熊谷
6月25日	17			熊谷
6月29日	18			熊谷
7月2日	19			熊谷
7月6日	20	関節可動域測定(ROM－T)頚部・体幹・手指・別法	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	熊谷
7月9日	21			熊谷
7月13日	22	後半まとめと再確認		熊谷
7月16日	23	医療面談＋バイタルサインの測定 評価の実施の流れ	問診、血圧測定、四肢長周径、関節可動域測定	熊谷
7月20日	24			熊谷
7月27日	25			熊谷
7月30日	26	実技筆記再確認①	チェックシートを用いて実技確認テスト	熊谷
8月3日	27	実機筆記再確認②	チェックシートを用いて実技確認テスト	熊谷
8月24日	28	実技筆記再確認③	チェックシートを用いて実技確認テスト	熊谷
8月31日	29	まとめと評価(筆記試験)		熊谷
9月6日	30	まとめと評価(実技試験)		熊谷
9月7日		まとめと評価(実技試験)		熊谷
				科目担当

教科書 参考書	理学療法評価学 改定第6版(金原出版)
授業に必要な物	実技は動きやすい格好。 指定があったときには、ケーシー(白衣)着用すること。
備考	実技は授業以外でも積極的に復習・練習を行うことが望ましい。

【科目名】	人間発達学	専門基礎分野(1単位)	【講師名】	沼田　映美(理学療法士):医療機関にて10年実務経験 木幡　博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生 第	1学年　理学療法学科
【時間数】	30時間　(2時間　15回)		【時間帯】	9:00 ～10:30　(他時間割参照)

授業 内容・目標	人間のライフサイクル全体を視野に入れつつ、乳幼児から成人、高齢者に至る人間の発達過程と各発達段階における心身の特性についての理解を深める。
前提知識	
【実施形態】	講義(○)　　演習(　　)　　実習(　　)
到達目標	

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10%	90%				
	実施時期		15回目				
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
	実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月19日	1	人間発達の基礎について	人間発達とは…	沼田
4月23日	2	運動発達について－①	運動発達について概論	沼田
4月26日	3	運動発達について－②	運動発達について各論	沼田
5月10日	4	認知・言語・社会性の発達について－①	認知・言語・社会性の発達	沼田
5月17日	5	認知・言語・社会性の発達について－②	国試問題実施	沼田
5月24日	6	運動発達について－③	円城寺式乳幼児分析的発達検査表　国試問題実施	沼田
5月31日	7	運動発達について－④	円城寺式乳幼児分析的発達検査表　国試問題実施	沼田
6月7日	8	運動発達について－⑤	デンバー式発達スクリーニング　国試問題実施	沼田
6月14日	9	運動発達について－⑥	デンバー式発達スクリーニング　国試問題実施	沼田
6月28日	10	発達検査表について	デンバー式発達スクリーニング　国試問題実施	沼田
7月5日	11	反射・反応の発達について－①	反射・反応の発達	沼田
7月12日	12	反射・反応の発達について－②	反射・反応の発達	沼田
7月19日	13	反射・反応の発達について－③	国試問題実施	沼田
7月26日	14	反射・反応の発達について－④	国試問題実施	沼田
8月2日	15	まとめと評価		沼田

教科書 参考書	なし
授業に必要な物	
備考	

【科目名】	解剖学Ⅱ	専門基礎分野 1単位	【講師名】	山口倫生(理学療法士):医療機関等にて12年実務経験 熊谷拓未(理学療法士):医療機関等にて5年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年　理学療法学科
【時間数】	30時間　(2時間 15回)		【時間帯】	9:00～12:10 (他時間割参照)

授業 内容・目標	筋の構造、筋名の理解ができるようになること
前提知識	筋の名前や形のおおよそのイメージ
【実施形態】	講義(○)　　演習(　　)　　実習(　　)
到達目標	筋の構造、筋名の理解ができるようになること

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10%	80%		10%		
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○		
	知識・理解		○				
	思考・推論						
	実践・表現				○		

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
6月17日	1	授業の流れ、筋の構造について①	骨格筋、筋組織、関節運動、筋の形状、筋に関連する構造等	山口
6月17日	2	筋の構造について②	骨格筋、筋組織、関節運動、筋の形状、筋に関連する構造等	山口
6月24日	3	筋の構造について③		山口
6月24日	4	大腿周囲筋について	縫工筋、大腿四頭筋、、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、 内側広筋、膝関節筋、恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、薄筋、 外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋	山口
7月1日	5	下腿周囲筋について	前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、腓腹筋、 ヒラメ筋、足底筋、長趾屈筋、長母趾屈筋、膝窩筋、後脛骨筋、 長腓骨筋、短腓骨筋	山口
7月1日	6	足関節周囲筋について	母指外転筋、短母趾屈筋、母指内転筋、小趾外転筋、 短小趾屈筋、小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、 底側骨間筋、背側骨間筋、短母趾伸筋、短趾伸筋	山口
7月8日	7	骨盤帯周囲筋について	腸骨筋、大腰筋、小腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、 大腿筋膜張筋、梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋	山口
7月8日	8	肩甲帯周囲筋について	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋	山口
7月15日	9	上腕周囲筋について	上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋	山口
7月15日	10	前腕周囲筋について	円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、 浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋、腕橈骨筋、 長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋、回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋	山口
7月29日	11	手関節周囲筋について	短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋、短掌筋、小指外転筋、 短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋、背側骨間筋、掌側骨間筋	山口
7月29日	12	脊柱の筋について	浅胸筋群、深胸筋群、横隔膜、腹部の筋、背部浅側の筋、棘肋筋群、固有背筋群、後頭下筋群	山口
8月5日	13	頭部、頸部の筋について	咀嚼筋群、浅頸筋、側頸筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群、椎前筋群、斜角筋群	山口
8月5日	14	全体の振り返り	各筋の起始、停止、走行、作用、神経	山口
8月26日	15	まとめと評価		山口

教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学　解剖学第4版
授業に必要な物	
備考	

【科目名】	心理学	基礎分野(1単位)	【講師名】 佐藤 宏平
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】 第1 学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 9:00～10:30 (他時間割参照)

授業内容・目標	心理学という幅広い領域で見出された心のルールに触れ、教養としての心理学をきちんと学んでほしい。
前提知識	
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	受講生の各々が、自分の興味に従って書籍やインターネットなどの様々なメディアを利用し、教養としての心理学を自ら深める最初の入り口となること。

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解	○	○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現	○					

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	心理学とは？	さまざまな心理学	佐藤
	2	ものの見え方の心理学(1)	錯視図形、反転図形	佐藤
	3	ものの見え方の心理学(2)	見えのしくみ、見えに及ぼす社会的影響	佐藤
	4	記憶と学習の心理学(1)	学習の不思議	佐藤
	5	記憶と学習の心理学(2)	記憶の不思議	佐藤
	6	動機付けの心理学(1)	思考の不思議(1)	佐藤
	7	動機付けの心理学(2)	思考の不思議(2)	佐藤
	8	脳と心の心理学	心の健康	佐藤
	9	性格と心理アセスメント(1)	パーソナリティの理解	佐藤
	10	性格と心理アセスメント(2)	パーソナリティの捉え方、形成と変容	佐藤
	11	人と人とのつながりの心理学(1)	対人関係(1)	佐藤
	12	人と人とのつながりの心理学(2)	対人関係(2)	佐藤
	13	発達と教育の心理学(1)	発達(1)	佐藤
	14	発達と教育の心理学(2)	発達(2)	佐藤
	15	まとめと評価	まとめと評価	内部教員

教科書 参考書	日本評論社 心理学のエッセンス
授業に必要な物	必要に応じて連絡。準備担当者をはじめ、各自事前に確認をすること。
備考	時間を守る、連絡を怠らないなど、基本的な振る舞いの上に技術が成り立つことををふまえ、取り組むこと。

【科目名】	臨床美術	基礎分野(2単位)	【講師名】 小野寺 良枝
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】第1 学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 10:40～12:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	年齢や障がいを越えたコミュニケーションによる対人援助について臨床美術を通じて学ぶ
前提知識	
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	制作体験を通じて、心の解放を図る

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)				100		
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○		
	知識・理解	○					
	思考・推論	○					
	実践・表現	○			○		

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	ガイダンス	臨床美術に関するビデオ鑑賞と制作体験	小野寺
	2	制作	りんごの量感画	小野寺
	3	臨床美術基幹	臨床美術の沿革(効果とその実際について)	小野寺
	4	制作	五感のアナログ画	小野寺
	5	存在論的人間観	根幹となる考え方について	小野寺
	6	制作	立体かぼちゃ(1)	小野寺
	7	制作	立体かぼちゃ(2)	小野寺
	8	制作	なすの量感画(量感画の意味を考える)	小野寺
	9	コミュニケーション1	臨床美術におけるコミュニケーション(言語)	小野寺
	10	コミュニケーション2	臨床美術におけるコミュニケーション(非言語)	小野寺
	11	コミュニケーション3	臨床(現場)の実際	小野寺
	12	制作	鉛筆のアナログ画	小野寺
	13	制作	土粘土による制作(土偶を作る)	小野寺
	14	制作	さつまいもの量感画	小野寺
	15	制作	色面とマチエール	小野寺

教科書 参考書	金子健二「臨床美術 認知症治療としてのアートセラピー」改訂新版
授業に必要な物	はさみ・スティックのり・ウェットティッシュ(お手拭)・ティッシュ・割りばしペン、その他必要に応じて連絡。準備担当者をはじめ、各自事前に確認をすること。
備考	時間を守る、連絡を怠らないなど、基本的な振る舞いの上に技術が成り立つことををふまえ、取り組むこと。

【科目名】	社会福祉学	基礎分野(2単位)	【講師名】	都築 光一
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1 学年　理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	13:00 ～ 14:30 (他時間割参照)

授業内容・目標	社会福祉について高い関心を持ち、理解することができる
前提知識	
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	社会福祉に関する様々な事象について説明することができる

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解	○	○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現	○			○		

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	社会福祉とは何か	社会福祉に関する理念と原理などについて講義する	都築
	2	社会福祉とは何か	社会福祉においてどのような人々が対象とされるのか講義する	都築
	3	社会福祉の歴史	日本および関係諸外国の社会福祉の歴史について講義する	都築
	4	社会福祉の実践理論	社会福祉の実実践理論として、援助技術を中心に講義する	都築
	5	社会福祉の政策	社会福祉に関する政策の概要について講義する	都築
	6	社会福祉の政策	社会福祉政策の実現に向けた計画の手法と実際について講義する	都築
	7	社会福祉の人材	社会福祉分野における専門職とその任用にちて講義する	都築
	8	社会福祉の組織と管理	社会福祉行財政の仕組みと管理運営方法について講義する	都築
	9	社会福祉の組織と管理	社会福祉施設や関係事業所の組織と管理について講義する	都築
	10	対象領域別福祉	高齢者福祉制度の概要について講義する	都築
	11	対象領域別福祉	児童福祉・障害者福祉制度の概要について講義する	都築
	12	公的扶助制度	公的扶助制度の概要について講義する	都築
	13	地域福祉	地域福祉の概念とその実践の状況に関して講義する	都築
	14	社会福祉の展望	社会福祉の今後の展望についてまとめ、講義する	都築
	15	まとめと評価	まとめと評価	内部教員

教科書 参考書	「(福祉ライブラリ)現代の社会福祉　第2版」建帛社
授業に必要な物	必要に応じて連絡。準備担当者をはじめ、各自事前に確認をすること。
備考	時間を守る、連絡を怠らないなど、基本的な振る舞いの上に技術が成り立つことををふまえ、取り組むこと。

【科目名】	社会科学論	基礎分野(1単位)	【講師名】 阿部 正孝
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】 第1 学年 理学療法学科
【時間数】	15時間 (2時間 8回)		【時間帯】 10:40～12:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	社会事象を科学的見地で理解する
前提知識	
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	社会事象を科学的見地で理解する

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100%				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲						
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
	実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	対人援助を科学する	対人援助	阿部
	2	障害を科学する	障害	阿部
	3	現代社会と障害を科学する	現代社会と障害	阿部
	4	発達障害を科学する	発達障害	阿部
	5	不登校を科学する	不登校	阿部
	6	ひきこもりを科学する	ひきこもり	阿部
	7	依存を科学する	依存	阿部
	8	まとめ	まとめ	阿部
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

教科書 参考書	講師の作成するプリント
授業に必要な物	必要に応じて連絡。準備担当者をはじめ、各自事前に確認をすること。
備考	時間を守る、連絡を怠らないなど、基本的な振る舞いの上に技術が成り立つことををふまえ、取り組むこと。

【科目名】	医学英語	基礎分野 1単位	【講師名】 木幡 博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験
			【講師名】 沼田映美(理学療法士):医療機関にて10年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 時間割参照

授業内容・目標	医療において、臨床や文献を理解する上で、高頻度で使用される専門用語についての英単語を覚え、その意味を理解する。
前提知識	英語の基本(文字の読み書き)が出来ている。 英語、または横文字に慣れている。
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	臨床、文献で使用される専門用語について読み書きが出来る。 英語で表記された用語の意味を理解し、説明出来る。

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	90				
	実施時期	平時	当科目終了時				
	補足	質疑応答・出席など	日本語⇔英語の変換				
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○				
	思考・推論						
	実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月13日	1	基礎用語①	身体部位、基本姿勢、運動方向	木幡
4月20日	2	基礎用語②	車いす、福祉用具、その他の用語	木幡
4月27日	3	基礎用語③	体位、姿勢	木幡
5月11日	4	基礎用語④	心疾患、バイタルサイン	木幡
5月18日	5	生理・解剖学においての関連用語③	調べ学習	木幡
5月25日	6	内部障害においての関連用語	心疾患、バイタルサイン、ICU	木幡
6月1日	7	小テスト		木幡
6月15日	8	中枢疾患においての関連用語①	脳血管障害	木幡
6月22日	9	中枢疾患においての関連用語②	小脳、パーキンソン病、下肢装具、歩行関連	木幡
6月29日	10	中枢疾患においての関連用語	調べ学習	木幡
7月6日	11	整形外科領域においての関連用語①	人工股関節置換術、変形性膝関節症、骨折	木幡
7月6日	12	整形外科領域においての関連用語②	調べ学習	木幡
7月13日	13	進行性疾患、内科、難病領域においての関連用語①	ALS、筋ジストロフィー、糖尿病	木幡
7月13日	14	進行性疾患、内科、難病領域においての関連用語②	調べ学習	木幡
7月20日	15	まとめと評価		木幡

教科書 参考書	各単元ごとにプリント配布
授業に必要な物	PC、プロジェクターを準備する。
備考	

【科目名】	医療倫理	基礎分野(1単位)	【講師名】	吉田　望(理学療法士):医療機関にて24年実務経験 山口倫生(理学療法士):医療機関にて14年実務経験 熊谷拓未(理学療法士):医療機関にて5年実務経験 金澤聡(作業療法士)
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年　理学療法学科　作業療法学科
【時間数】	15時間　(2時間 8回)		【時間帯】	木 13:00～14:30　(他時間割参照)

授業 内容・目標	医療専門職として必要な医療倫理について学ぶ 現在の医療現場において存在する倫理的な諸問題を理解する 患者さんと接する上で必要なことを考える
前提知識	
【実施形態】	講義(　○　)　　演習(　　)　　実習(　　)
到達目標	医療倫理の4原則を理解する 医療職としての個人情報保護を理解する 医療専門職としての職業倫理感を身につける

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	60			30	
	実施時期	平時	第8回			随時	
	補足						
	関心・意欲	○				○	
	知識・理解		○			○	
	思考・推論	○	○			○	
	実践・表現		○			○	

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月21日	1	医療人としての態度 医療職に求められるコミュニケーションスキル	メラビアンの法則 なぜ高いコミュニケーション能力が求められるのか	吉田
4月28日	2	医療人としてのモラル	ルールとモラル	吉田
5月12日	3	医療倫理の原則	医療倫理をなぜ学ぶのか ヒポクラテスの誓い 医療倫理の4原則	吉田
5月19日	4	命をめぐるジレンマ①	現代の医療に内在する倫理的問題を理解する 安楽死について倫理的に議論する それらの出来事の背景にある倫理的諸問題や課題を概説できる。 インフォームドコンセント 自己決定権	吉田
5月26日	5	命をめぐるジレンマ②		吉田
6月2日	6	命をめぐるジレンマ③		吉田
6月16日	7	職業倫理	プライバシー保護　個人情報保護法 医道審議会　理学療法士・作業療法士　欠格要件　取り消し要件 事例検討	吉田
6月23日	8	～まとめと確認～	・授業内容の確認 ・医療倫理の4原則に基づき、現在の医療に存在する倫理的問題について意見を述べることができる	吉田
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

教科書 参考書	
授業に必要な物	やる気。聞く態度。
備考	

【科目名】	運動療法総論Ⅰ	専門分野 1単位	【講師名】	佐藤 大樹(理学療法士):医療機関にて6年実務経験 熊谷 拓未(理学療法士):医療機関等にて5年実務経験 山口 倫生(理学療法士):医療機関等にて12年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第 1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	10:40～12:10 (他時間割参照)
授業内容・目標	理学療法に関する概念、運動療法の学問的基礎及び対象となる障害について学び、今後の学習への準備をする。日常生活で用いられる基本動作の誘導・介助法を学び、その中から医療専門職としての倫理観や理学療法士としての専門意識を育成する。一般的に用いられているストレッチングや筋力強化トレーニングなど自動的運動療法を学問的・理論的に捉え、自ら体験しながら学習し理解する。			
前提知識	入学時からの解剖学・生理学の知識。 人の身体機能への興味。			
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )			
到達目標	健常人に対しての基礎的な運動療法を理解出来る。 関節の構造や、人の様々な動きについて観察することが出来る。			

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	90				
	実施時期	平時	当科目終了時				
	補足	質疑応答・出席など					
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○				
	思考・推論						
	実践・表現	○					

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月16日	1	運動療法とは①	運動療法の概要、運動療法の目的	佐藤
4月23日	2	運動療法とは②	運動療法の概要、運動療法の目的	佐藤
5月7日	3	関節運動について①	関節可動域運動方法、関節運動学を用いた関節可動域運動	佐藤
5月21日	4	関節運動について②	関節運動の分類、関節可動域障害の原因	佐藤
5月28日	5	関節運動について③	関節の構造と分類、関節の遊び(LPP・CPP)	佐藤
6月4日	6	ストレッチング①	ストレッチングの目的、効果、ストレッチングの種類	佐藤
6月18日	7	ストレッチング②	ストレッチングの実際	佐藤
6月25日	8	モビライゼーション①	モビライゼーションの全体像	佐藤
7月2日	9	モビライゼーション②	モビライゼーションの種類、方法	佐藤
7月9日	10	筋力増強運動について①	筋肉とは？骨格筋の構造は？	佐藤
7月16日	11	筋力増強運動について②	筋力増強運動(負荷量と回数)、筋持久力練習	佐藤
7月30日	12	筋力増強運動について③	体力の改善について	佐藤
8月25日	13	基本動作、身辺動作について	基本動作とは	佐藤
8月27日	14	基本動作、身辺動作について	基本動作に必要な運動機能はどんなものがあるか？	佐藤
9月3日	15	まとめと確認		佐藤

教科書 参考書	理学療法学ゴールドマスターテキスト ② 運動療法学 編集 柳澤 健 メジカルビュー社
授業に必要な物	指示があった場合は動きやすい服装、PC、プロジェクター等の準備
備考	

【科目名】	解剖学Ⅰ	専門基礎分野 1単位	【講師名】	熊谷 拓未(理学療法士):医療機関等にて5年実務経験 山口 倫生(理学療法士):医療機関等にて12年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1 学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	9:00～12:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	骨の構造、骨の各名称の理解ができるようになること
前提知識	骨の名前や形のイメージ
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	骨の構造、骨の各名称の理解ができるようになること

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10%	80%		10%		
	実施時期		当科目終了時				
	補足	授業態度			予習課題提出状況		
	関心・意欲	○			○		
	知識・理解		○		○		
	思考・推論		○		○		
	実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月15日	1	授業の流れ、人体の構成と発生①	P5～26の内容	熊谷
4月15日	2	人体の構成と発生②	P5～26の内容	熊谷
4月22日	3	骨の構造について	P27～35の内容	熊谷
4月22日	4	骨学(大腿骨、膝蓋骨)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
5月6日	5	骨学(脛骨、腓骨)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
5月6日	6	骨学(足骨)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
5月13日	7	骨学(骨盤帯)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
5月13日	8	骨学(肩甲骨、鎖骨)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
5月20日	9	骨学(上腕骨)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
5月20日	10	骨学(橈骨、尺骨)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
5月27日	11	骨学(手骨)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
5月27日	12	骨学(脊柱)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
6月3日	13	骨学(頭部)	骨標本を使用し、グループで覚える。	熊谷
6月3日	14	全体の振り返り		熊谷
6月15日	15	まとめと評価		熊谷

教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学第4版
授業に必要な物	骨標本
備考	

【科目名】	解剖学Ⅲ(神経・脈管)	専門基礎分野(1単位)	【講師名】 高村 真司 (理学療法士):医療機関にて13年実務経験 佐藤 大樹 (理学療法士):医療機関にて7年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】第1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 13:00～14:30 (他時間割参照)

授業 内容・目標	脳と脊髄の基本構造と名称、および主な末梢神経の名称と走行を理解する。 心臓の構造と名称、体幹と体肢の主な血管と走行、およびリンパ系を理解する。
前提知識	これまでの他科目で得た身体構造の知識
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	人の神経・脈管系を総合的に理解する。

成績評価 基準と方法	意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
配分(%)		100				
実施時期		科目終了時				
補足						
関心・意欲		○				
知識・理解		○				
思考・推論		○				
実践・表現		○				

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	神経系総論	神経系の区分・神経系の構成	高村
	2	中枢神経系	大脳	高村
	3	中枢神経系	間脳・辺縁系	高村
	4	中枢神経系	脳幹・小脳	高村
	5	中枢神経系	神経路	高村
	6	末梢神経系	脳神経	高村
	7	末梢神経系	自律神経系	高村
	8	中枢神経系	脊髄・脊髄神経(頸神経)	高村
	9	末梢神経系	脊髄神経(胸神経・腰神経)	高村
	10	末梢神経系	脊髄神経(仙骨神経)	高村
	11	循環器系	血管系 心臓・動脈系①	高村
	12	循環器系	血管系 心臓・動脈系②・静脈系	高村
	13	循環器系	血管系 脳動・静脈系	高村
	14	循環器系	リンパ系	高村
	15	まとめと評価	知識・理解度の確認	科目担当

教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野) 解剖学 第5版 野村嶬(著) 医学書院
授業に必要な物	PC、全身骨格の模型、脳の模型、心臓の模型
備考	

【科目名】	解剖学Ⅳ(内臓学)	専門基礎分野(1単位)	【講師名】	佐藤　大樹(理学療法士):医療機関にて6年実務経験 高村　真司(理学療法士):医療機関にて13年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年　理学療法学科
【時間数】	30時間　(2時間 15回)		【時間帯】	10:40～12:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	人体構造のうち、内臓・感覚器について基本的な事項を理解する。
前提知識	
【実施形態】	講義(○)　　演習(　　)　　実習(　　)
到達目標	人体構造のうち、内臓・感覚器について基本的な事項を理解し、説明できる。

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
	実践・表現		○				

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月14日	1	消化器系1	口腔 咽頭 食道 胃	佐藤
4月14日	2	消化器系2	小腸 大腸 肛門	佐藤
4月21日	3	消化器系3	肝臓 胆嚢 膵臓	佐藤
4月21日	4	呼吸器系1	鼻腔 咽頭 喉頭	佐藤
4月28日	5	呼吸器系2	気管 肺 横隔膜	佐藤
4月28日	6	腹膜腔	腹膜腔 嚥下	佐藤
5月12日	7	人体の発生	人体の発生機序	佐藤
5月12日	8	感覚器系1	外皮 視覚器	佐藤
5月19日	9	感覚器系2	平衡・聴覚器 嗅覚器 味覚器	佐藤
5月19日	10	泌尿器系	泌尿器	佐藤
5月26日	11	生殖器系1	男性生殖器	佐藤
5月26日	12	生殖器系2	女性生殖器	佐藤
6月2日	13	内分泌系1	ホルモン	佐藤
6月2日	14	内分泌系2	内分泌腺の種類	佐藤
6月21日	15	まとめと評価	知識・理解度の確認	佐藤

教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野) 解剖学　第4版　野村嶬(著)　医学書院
授業に必要な物	PC連動　全身骨格の模型、脳の模型、心臓の模型
備考	

【科目名】	地域リハビリテーション	専門基礎分野(1単位)	【講師名】 阿部旭先生(理学療法士):医療機関にて12年実務経験
			【講師名】 吉田望先生(理学療法士):医療機関にて25年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 金曜 13:00～14:30 14:40～16:10

授業内容・目標	地域リハビリテーションとは何かを理解できる 社会福祉や介護保険に関する法律や制度を理解できる 予防・災害・産業理学療法についての理解を深めることができ、幅広い理学療法の職域を理解できる 見学実習(通所リハ・訪問リハ)にむけて地域リハビリテーションの概要を理解できる
前提知識	理学療法士を目指す学生としての意欲を持っていること
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	地域の中での理学療法の基本を理解する 様々な在宅支援サービスとその中での理学療法士の役割を理解する

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	90				
	実施時期		15回				
	補足	授業態度					
	関心・意欲	○					
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
	実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
5月28日	1	地域リハビリテーションの概要	グループワーク(テーマ:現時点で想像する地域リハビリテーションとは?) グループワークの手法 地域リハビリテーションの定義	阿部旭
5月28日	2	地域リハビリテーションの概要	プライマリヘルスケア、CBR、一次圏域、二次圏域、三次圏域	阿部旭
6月4日	3	社会福祉や介護保険の制度	障害者自立支援法、介護保険法 特定疾患、介護保険の利用方法、ケアプラン	阿部旭
6月4日	4	介護保険サービスの種類	通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーション、介護老人保健施設 介護予防・日常生活支援総合事業、短期入所、医療保険との違い、多職種協働	阿部旭
6月18日	5	通所リハビリテーションにおけるPTの役割	リハビリテーションの目的、通所リハビリテーションの業務内容(1日のタイムスケジュール、サービス担当者会議、実態調査、評価、介入等)、「活動」と「参加」に向けた取り組み、多職種連携	阿部旭
6月18日	6	訪問リハビリテーションにおけるPTの役割	リハビリテーションの目的、訪問リハビリテーションの業務内容(1日のタイムスケジュール、リハビリテーション会議、評価、介入等)、「活動」と「参加」に向けた取り組み、多職種連携	阿部旭
6月25日	7	老人保健施設におけるPTの役割	リハビリテーションの目的、業務内容(1日のタイムスケジュール、介助指導、ポジショニング、集団体操など)、多職種連携	阿部旭
6月25日	8	地域におけるPTの役割	地域支援事業、地域ケア会議、地域包括支援センター、地域・多職種連携、地域包括ケアシステム、地域ケア会議、自助・互助・共助・公助	阿部旭
7月2日	9	予防理学療法の概要	介護予防の定義と取り組み、一次予防、二次予防、三次予防、フレイル、サルコペニア、基本チェックリスト	阿部旭
7月2日	10	産業・災害理学療法の概要	労働衛生管理、労働安全衛生法 災害フェーズ、JRAT、災害時の支援活動時の状況と求められるスキル	阿部旭
7月9日	11	復習	定義、法律や制度、サービスの種類とPTの役割、職域の再確認	阿部旭
7月9日	12	復習	グループワーク テーマ:地域リハビリテーションとは? 私たちに求められるスキルは?	阿部旭
7月16日	13	見学実習に向けて(通所リハビリテーション)	挨拶、見学時の態度、患者様宅訪問時の注意点など社会人としてのマナー	阿部旭
7月16日	14	見学実習に向けて(訪問リハビリテーション)	当院での見学実習マニュアルを基に、実習の流れを説明	阿部旭
7月30日	15	まとめと評価		内部教員

教科書 参考書	指定なし
物	座学ではPC、プロジェクターを準備する。
	グループワークでは積極的に発言することを心掛けること。

【科目名】	物理療法Ⅰ	専門分野　1単位	【講師名】	小畑　陽平(理学療法士):医療機関等にて14年実務経験 熊谷　拓未(理学療法士):医療機関等にて5年実務経験 山口　倫生(理学療法士):医療機関等にて12年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第　1学年　理学療法学科
【時間数】	30時間(2時間　15回)		【時間帯】	13:00～14:30　(他時間割参照)

授業 内容・目標	理学療法士が実践する基本的な手技療法について学び、興味を持ち、体験することを目標とする。
前提知識	理学療法士(職種)の理解と理学療法士の興味、解剖学等
【実施形態】	講義(　○　)　　演習(　　)　　実習(　　)
到達目標	理学療法士に対するモチベーションをさらに高める。 理学療法士が実践する治療法を体験する。

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表	レポート
	配分(%)	60					40
	実施時期	平時					講義最終
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解						
	思考・推論						
	実践・表現	○					

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月12日	1	授業説明、徒手療法と筋ダイレクトストレッチ法	授業説明、徒手療法とは	小畑
4月19日	2	徒手療法と筋ダイレクトストレッチ法	足部、下腿部	小畑
5月10日	3	徒手療法と筋ダイレクトストレッチ法	大腿部～臀部	小畑
5月17日	4	徒手療法と筋ダイレクトストレッチ法	体幹部～頭部	小畑
5月24日	5	関節モビライゼーション法	下肢のモビライゼーション	小畑
5月31日	6	関節モビライゼーション法	上肢のモビライゼーション	小畑
6月7日	7	PNF法	PNFとは	小畑
6月14日	8	PNF法	上肢に対するPNF	小畑
6月21日	9	PNF法	下肢に対するPNF	小畑
6月28日	10	テーピング法	テーピングの基礎	小畑
7月5日	11	テーピング法	上肢に対するテーピング法	小畑
7月12日	12	テーピング法	下肢に対するテーピング法	小畑
7月19日	13	筋トレとダイエット	筋トレとダイエットに対する基礎	小畑
7月19日	14	筋トレとダイエット	筋トレとダイエットに対する基礎	小畑
7月26日	15	まとめと評価	まとめと評価	小畑

教科書等	理学療法　ゴールドマスターテキスト　運動療法
授業に必要な物	ハーフパンツ、半そで
備考	

【科目名】	理学療法概論	専門分野(2単位)	【講師名】	金子 亮太郎(理学療法士):医療機関にて14年実務経験 吉田 望(理学療法士):医療機関にて24年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年　理学療法学科
【時間数】	60時間　(2時間　30回)		【時間帯】	14:40～16:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	リハビリテーションの思想を学び、リハビリテーション医療に携わる様々な医療専門職の役割を理解する。 患者・障害者・高齢者と、その家族らの身体・心理・社会面に関わる専門職としての理念・役割について考える。 医療従事者としてあるべき姿勢・考え方と、対象となる患者・障害者像を捉える基盤を形成する。
前提知識	医療・福祉領域の専門職の名称と業務内容(入学前教育) 専門職として相応しい言葉遣いができること
【実施形態】	講義(○)　　演習(○)　　実習( )
到達目標	理学療法士が働く領域について理解できる 患者・障害者の捉え方を理解する リハビリテーションの流れや関連する他の職種について理解する

成績評価基準と方法	意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
配分(%)	10%	80%		10%		
実施時期				海洋リハ実施後		
補足		金子先生講義筆記試験		海洋リハレポート		
関心・意欲	○				○	
知識・理解		○		○		
思考・推論		○		○	○	
実践・表現				○	○	

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月13日	1	理学療法を学ぶという事	理学療法士とは	吉田
4月13日	2		理学療法士とは	吉田
4月22日	3	理学療法士の仕事を理解する	理学療法士の働く場を調べてみよう(病院)	吉田
4月23日	4		理学療法士の働く場を調べてみよう(介護老人保健施設)	吉田
4月26日	5		理学療法士の働く場を調べてみよう(通所リハ・訪問リハ)	吉田
5月6日	6		理学療法士に求められるものの理解　(社会性)	吉田
5月7日	7		理学療法士に求められるものの理解　(感性と距離感)	吉田
5月7日	8		理学療法士に求められるものの理解　(コミュニケーション)	吉田
5月20日	9		理学療法士に求められるものの理解　(身だしなみ)	吉田
5月27日	10	様々なリハビリテーションを知る	海洋リハビリテーション研修について	吉田
6月3日	11		海洋リハビリテーション研修について	吉田
6月9日	12		海洋リハビリテーション研修(沖縄)	吉田
6月10日	13		海洋リハビリテーション研修(沖縄)	吉田
6月11日	14		海洋リハビリテーション研修(沖縄)	吉田
4月13日	15	リハビリテーションとは	リハビリテーションの歴史	金子
4月20日	16		急性期～回復期～維持期	金子
4月27日	17		急性期～回復期～維持期	金子
5月11日	18		関連職種について	金子
5月18日	19		関連職種について	金子
5月25日	20		各種法律	金子
6月1日	21		まとめと確認(金子先生分)	内部教員
6月17日	22	障害や生活機能を理解する	障害を理解する(KJ法)	吉田
6月24日	23		障害を体験する	吉田
6月30日	24		障害を体験する	吉田
6月30日	25		ICIDH　ICD10	吉田
7月1日	26		ICFとは	吉田
7月7日	27		ICFのコード	吉田
7月7日	28		心身機能身体構造、活動、参加、個人因子、環境因子　促進因子、阻害因子	吉田
7月8日	29		症例のICF構造	吉田
7月14日	30		まとめと確認(吉田分)	吉田

教科書 参考書	なし
授業に必要な物	
備考	

【科目名】	地域理学療法見学実習	専門分野 （1単位）	【講師名】 高村 真司(理学療法士):医療機関にて13年実務経験 木幡 博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生 第1学年 理学療法学科
【時間数】	45時間		【時間帯】 8 ：30 ～ 17 ：30 （他時間割参照）

授業 内容・目標	本実習は、臨床実習の枠組みの中で、地域理学療法の見学実習を行うものとする。 地域理学療法に関わる理学療法士の役割を理解するとともに、自主性・積極性・社会性を養い、専門職としての相応しい態度を身に付ける。 実際の臨床現場に触れることで、理学療法士への自覚を発展させる。
前提知識	医療人としての適切な身だしなみや態度・行動等、専門職学生として相応しい態度 臨床実習を通じて、自己の理学療法士としての自覚を高めるための意欲 等
【実施形態】	講義（ ） 演習（ ） 実習（ ○ ）
到達目標	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法の役割を理解する。 自主性・積極性・社会性を養い専門職としての相応しい態度を身に付ける。 関連職種との連携や協働を学ぶ。 理学療法士を目指す目的意識をより一層強固なものにする。

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他（確認試験）
	配分（%）	実習前・後評価、及び臨床実習における評価報告書 総評等に基づく。					
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
	思考・推論	○			○	○	
	実践・表現	○			○	○	

授業計画

	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
9月10日	1	実習前評価		
9月10日	2			
9月13日 ～ 9月17日 1週間 （5日間）	3	地域理学療法見学実習		
	4			
	5			
	6			
	7			
9月21日	8	実習後評価		
9月21日	9			

教科書 参考書	1年次に使用する教科書・参考書類 その都度必要な文献・論文類
授業に必要な物	ケーシー、上靴、検査道具等含む、実習に必要な物及び実習施設にて要必要と指示があった物
備考	

【科目名】	法学	基礎分野(1単位)	【講師名】	渡辺 信英 長谷川 雄一
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第1学年　理学療法学科
【時間数】	30時間　(2時間 15回)		【時間帯】	14:40～16:10 (他時間割参照)

授業 内容・目標	憲法の意味と基本的人権の理解
前提知識	
【実施形態】	講義(○)　　演習(　　)　　実習(　　)
到達目標	医療人を目指す者として人権と福祉について理解する

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		当科目終了後				
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
	実践・表現		○				

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	憲法総論①	憲法の意義	渡辺
	2	憲法総論②	個人の尊重と福祉	長谷川
	3	憲法総論③	憲法の意義特質	長谷川
	4	基本的人権について	人権総論①	長谷川
	5	基本的人権について	人権総論②	渡辺
	6	基本的人権について	制度的保障	渡辺
	7	基本的人権について	人権の享有主体性	渡辺
	8	人権の妥当範囲	憲法の私人間効力	渡辺
	9	人権の妥当範囲	特別権力関係論	渡辺
	10	基本的人権の限界	公共の福祉	渡辺
	11	基本的人権の限界	比較衡量論	渡辺
	12	包括的権利と基本原則	個人の尊重と幸福追求権	渡辺
	13	自由権	精神的自由権	渡辺
	14	国民の義務	国民の義務総論	渡辺
	15	まとめと評価	知識・理解度の確認	渡辺

教科書 参考書	「日本国憲法　人権と福祉」渡辺信英(編)　南窓社　2014
授業に必要な物	適宜連絡する
備考	

【科目名】	情報処理	基礎分野(2単位)	【講師名】	沼田　映美(理学療法士):医療機関にて10年実務経験 熊谷　拓未(理学療法士):医療機関にて5年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第 1 学年　　理学療法学科
【時間数】	30時間　(2時間　　15回)		【時間帯】	14:40 ～ 16:10　　(他時間割参照)

授業 内容・目標	文書作成などの実践を通じ、コンピューターを思考の道具として用いる基礎力の習得
前提知識	
【実施形態】	講義(　　)　　演習(○)　　実習(　　)
到達目標	文書作成ができるようになる

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)				100		
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○		
	知識・理解	○			○		
	思考・推論	○			○		
	実践・表現	○			○		

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	パソコンのしくみと基本操作	キーボード操作(1)	沼田
	2	パソコンのしくみと基本操作	キーボード操作(2)	沼田
	3	ワープロによる文書作成(1)	文字入力	沼田
	4	ワープロによる文書作成(2)	箇条書き	沼田
	5	ワープロによる文書作成(3)	表	沼田
	6	ワープロによる文書作成(4)	特別な場所	沼田
	7	ワープロによる文書作成(5)	検索と置換	沼田
	8	ワープロによる文書作成(6)	文の構成	沼田
	9	インターネットの活用(1)	情報をさがせ	沼田
	10	表計算ソフトによるデータ処理(1)	データ入力、基本操作	沼田
	11	表計算ソフトによるデータ処理(2)	関数、計算式をつくる	沼田
	12	表計算ソフトによるデータ処理(3)	表計算	沼田
	13	表計算ソフトによるデータ処理(4)	データベース	沼田
	14	インターネットの活用(2)	こわいインターネット	沼田
	15	インターネットの活用(3)	インターネットで暮らしが変わる	沼田

教科書 参考書	「30時間でマスターWord&Excel2010」実教出版編集部・実教出版
授業に必要な物	必要に応じて連絡。準備担当者をはじめ、各自事前に確認をすること。
備考	

【科目名】	精神保健学	基礎分野(2単位)	【講師名】 阿部正孝先生
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】第 1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 13:00～14:30 (他時間割参照)

授業内容・目標	精神保健の個別課題を理解し、リハビリテーションの役割を知る。
前提知識	前期の講義内容
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	精神保健の個別課題を理解し、リハビリテーションの役割を説明できる。

成績評価基準と方法	意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
配分(%)		100				
実施時期		当科目終了後				
補足						
関心・意欲	○					
知識・理解	○	○				
思考・推論	○	○				
実践・表現	○					

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	精神の健康1	乳児期・幼児期の問題	阿部先生
	2	精神の健康2	思春期・青年期の問題	阿部先生
	3	精神の健康3	成人期・老年期の問題	阿部先生
	4	精神保健の個別課題と支援1	認知症、アルコール問題	阿部先生
	5	精神保健の個別課題と支援2	薬物乱用、自殺・うつ病	阿部先生
	6	精神保健の個別課題と支援3	発達障害1	阿部先生
	7	精神保健の個別課題と支援4	発達障害2	阿部先生
	8	精神保健の個別課題と支援5	災害支援	阿部先生
	9	精神保健が療法士に期待するもの	療法士の役割	阿部先生
	10	リハビリから見る学校の課題とアプローチ	学校の役割・課題とアプローチ①	阿部先生
	11	リハビリから見る学校の課題とアプローチ	学校の役割・課題とアプローチ②	阿部先生
	12	リハビリから見る労働者の課題とアプローチ	労働者とリハビリ	阿部先生
	13	精神科の療法士、療法の進め方	精神科の療法士に求められること	阿部先生
	14	リフレーミング	リフレーミング	阿部先生
	15	振り返り	まとめと評価	内部教員

教科書 参考書	講師の作成するプリント
授業に必要な物	プロジェクター(PC連動・OHP・スライド)・その他
備考	特になし

【科目名】	保健体育	専門分野　1単位	【講師名】　沼田　映美(理学療法士):医療機関にて10年実務経験 吉田　望　(理学療法士):医療機関にて25年実務経験
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】 第　1学年　理学療法学科
【時間数】	30時間　(2時間　15回)		【時間帯】 9:00～10:30　(他時間割参照)

授業 内容・目標	地域に携わる健康指導を理解し、自ら考え運動方法や、運動指導が行えるようにする。
前提知識	年齢層にあった運動負荷、地域理学療法学、解剖学
【実施形態】	講義(　　)　　演習(　○　)　　実習(　　)
到達目標	運動指導に対する知識を身に着け、年齢層にあった運動指導を実践できる。また、リスク管理が行える。

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10				90	
	実施時期	平時				平時	
	補足	質疑応答・出席など					
	関心・意欲	○				○	
	知識・理解					○	
	思考・推論					○	
	実践・表現	○				○	

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	スポーツ	スポーツの動作から人の体の動きを学ぶ。	沼田
	2	スポーツ	スポーツの動作から人の体の動きを学ぶ。	沼田
	3	スポーツ	スポーツの動作から人の体の動きを学ぶ。	沼田
	4	スポーツ	スポーツの動作から人の体の動きを学ぶ。	沼田
	5	スポーツ	スポーツの動作から人の体の動きを学ぶ。	沼田
	6	スポーツ	スポーツの動作から人の体の動きを学ぶ。	沼田
	7	スポーツ	スポーツの動作から人の体の動きを学ぶ。	沼田
	8	スポーツ	スポーツの動作から人の体の動きを学ぶ。	沼田
	9	健康教室について	ディスカッション、調べ方、まとめ方、発表の仕方等	沼田
	10	グループワーク	ディスカッション、調べ方、まとめ方、発表の仕方等	沼田
	11	グループワーク	ディスカッション、調べ方、まとめ方、発表の仕方等	沼田
	12	実演		沼田
	13	実演		沼田
	14	実演		沼田
	15	実演		沼田

教科書等	教科書は特にないが、文献等を見ることを勧める。
授業に必要な物	動きやすい服装、PC、プロジェクター等の準備
備考	グループで協力して行う。一人一人必ず役割を与える。

【科目名】	体表解剖	専門分野　1単位	【講師名】　小畑　陽平(理学療法士):医療機関にて15年実務経験 山口　倫生(理学療法士):医療機関にて12年実務経験
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】第　1学年　理学療法学科
【時間数】	30時間　(2時間　15回)		【時間帯】　10:40～12:10 (他時間割参照)
授業 内容・目標	理学療法士に必要な触察技術の基礎として、解剖学・運動学の知識を具体的に3次元的なイメージをつなげ、実際に触診、触察の技術を身につける。		
前提知識	骨学、筋学、運動学		
【実施形態】	講義(　○　)　　演習(　　)　　実習(　　)		
到達目標	骨、筋肉のイメージをつけ、正確な触察ができる。 評価学、運動学、動作観察などに活かせる。		

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	80		10		
	実施時期	平時	中間、最終		毎回		
	補足	質疑応答・出席など					
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○				
	思考・推論						
	実践・表現	○					

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	骨、筋の触診・触察法	触察のやり方、大腿直筋	小畑
	2	骨、筋の触診・触察法	縫工筋、外側広筋前面、内側広筋	小畑
	3	骨、筋の触診・触察法	大腿筋膜張筋、中殿筋前部	小畑
	4	骨、筋の触診・触察法	内転筋群	小畑
	5	骨、筋の触診・触察法	前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋、第3腓骨筋、後脛骨筋)、(足底筋)	小畑
	6	骨、筋の触診・触察法	長、短腓骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋、長母趾屈筋、長趾屈筋、膝窩筋	小畑
	7	骨、筋の触診・触察法	大腿二頭筋、外側広筋(後部)、半腱様筋、半膜様筋	小畑
	8	中間確認テスト	下肢全体	小畑
	9	骨、筋の触診・触察法	大殿筋、中殿筋(後部)、小殿筋、梨状筋、大腰筋、腸骨筋、腸腰筋など	小畑
	10	骨、筋の触診・触察法	棘上筋、棘下筋、大円筋、小円筋、肩甲下筋、広背筋、菱形筋	小畑
	11	骨、筋の触診・触察法	三角筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋	小畑
	12	骨、筋の触診・触察法	烏口腕筋、腕橈骨筋、上腕筋	小畑
	13	骨、筋の触診・触察法	長、短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋、総指伸筋、長母指外転筋、長、短母指伸筋	小畑
	14	骨、筋の触診・触察法	円回内筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長掌筋、浅、深指屈筋、長母指屈筋	小畑
	15	まとめと評価	上記筋すべて	小畑

教科書等	標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第4版、プリント
授業に必要な物	ハーフパンツ、半そで
備考	手内在筋、体幹筋は学内実習で追加で実施する(試験範囲外)

【科目名】	生理学	専門基礎分野 2単位	【講師名】	木幡 博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験 高村 真司(理学療法士):医療機関にて13年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科
【時間数】	60時間 (2時間 30回)		【時間帯】	9:00～10:30 10:40～12:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについての基本的な事柄を理解する
前提知識	
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについて説明できる

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解	○	○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	生命現象と人体(遠隔授業)	身体の階層性、生命現象、水、ホメオスタシス	木幡
	2	細胞の構造と機能①(遠隔授業)	細胞膜、核、細胞小器官	木幡
	3	細胞の構造と機能②(遠隔授業)	静止電位、活動電位	木幡
	4	細胞の構想と機能③(遠隔授業)	まとめ(細胞の機能、静止電位、活動電位)	木幡
	5	神経の興奮伝導と末梢神経①(遠隔授業)	神経細胞の構造、興奮の伝導(跳躍伝導)	木幡
	6	神経の興奮伝導と末梢神経②(遠隔授業)	末梢神経の種類(脳神経、脊髄神経)、自律神経	木幡
	7	神経の興奮伝導と末梢神経③	シナプスにおける興奮の伝達(シナプスの構造、興奮の伝達、神経伝達物質)	木幡
	8	神経の興奮伝導と末梢神経④	まとめ(興奮の伝導・伝達、末梢神経、自律神経)	木幡
	9	中枢神経系①	中枢神経系の構造、脊髄	木幡
	10	中枢神経系②	脳幹、小脳、間脳	木幡
	11	中枢神経系③	大脳皮質、脳の高次脳、脳波、覚醒と睡眠、その他	木幡
	12	中枢神経系④	まとめ(中枢神経系の構造・機能)	木幡
	13	前半のまとめ	前半総まとめ(「生命現象と人体」～「筋と骨」まで)	木幡
	14	筋と骨①	骨格筋(構造、運動単位、興奮収縮連関、骨格筋の収縮)	木幡
	15	筋と骨②	骨格筋(骨格筋線維の種類、筋紡錘とGolgi腱器官)	木幡
	16	筋と骨③	心筋(不応期、Starlingの法則)、平滑筋(機能)、骨(形成と吸収、成長)	高村
	17	筋と骨④	まとめ(骨格筋、心筋、平滑筋、骨)	高村
	18	感覚について①	閾値、順応、体性感覚(皮膚感覚、深部感覚)、深部感覚、内臓感覚	高村
	19	感覚について②	特殊感覚(1)視覚	高村
	20	感覚について③	特殊感覚(2)聴覚と平衡感覚、味覚、嗅覚	高村
	21	感覚について④	まとめ(体性感覚、深部感覚、特殊感覚)	高村
	22	心臓と循環①	血液の循環、刺激伝導系、神経による調節	高村
	23	心臓と循環②	心電図、血液の拍出と血圧	高村
	24	心臓と循環③	心周期	高村
	25	心臓と循環④	血圧の調節、静脈還流、臓器循環、リンパ循環	高村
	26	心臓と循環⑤	まとめ(心臓～リンパ循環)	高村
	27	血液について①	血液の組成(赤血球、白血球)	高村
	28	血液について②	血液の組成(血小板、血漿、血液型)及び まとめ	高村
	29	後半のまとめ	後半総まとめ(「感覚」～「血液」)	高村
	30	まとめと評価	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みの理解	高村

	病気がみえる Vol.7 脳・神経 病気がみえる Vol.2 循環 など
授業に必要な物	ルーズリーフおよびノートなど(板書しますので、書き取れるものを準備しておくこと)、状況に応じてお伝えします
備考	

【科目名】	生理学実習	基礎分野 1単位	【講師名】 川﨑 加奈(作業療法士) 木幡 博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科
【時間数】	45時間 (2時間 23回)		【時間帯】 9:00～12:10(時間割参照)

授業 内容・目標	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについての基本的な事柄を理解する
前提知識	
【実施形態】	講義( ) 演習( ) 実習(○)
到達目標	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについて理解できる 人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについて説明できる

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解	○	○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	呼吸とガスの運搬①	外呼吸と内呼吸、気道と肺胞	川﨑
	2	呼吸とガスの運搬②	呼吸運動、呼吸気量	川﨑
	3	呼吸とガスの運搬③	ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節、病的呼吸	川﨑
	4	尿の生成と排泄②	腎臓の役割・腎臓の構造	川﨑
	5	尿の生成と排泄②	尿の生成、クリアランス	川﨑
	6	尿の生成と排泄③	排尿、尿の性状と排尿の異常	川﨑
	7	酸塩基平衡①	血漿のpH調節	川﨑
	8	酸塩基平衡②	血漿のpH調節	川﨑
	補	前半のまとめ	第9章～第11章のまとめ	川﨑
	9	消化と吸収①	消化器の役割、口腔消化と嚥下	川﨑
	10	消化と吸収②	食道における食物輸送、胃の役割と消化	川﨑
	11	消化と吸収③	十二指腸・空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割	川﨑
	12	内分泌①	内分泌機能とホルモン	川﨑
	13	内分泌②	各腺から分泌されるホルモンの作用①下垂体と視床下部	川﨑
	14	内分泌③	各腺から分泌されるホルモンの作用②甲状腺と副甲状腺、副腎皮質と副腎髄質	川﨑
	補	内分泌④	各腺から分泌されるホルモンの作用③膵臓、性腺、子の他	川﨑
	補	中間のまとめ	第12、13章のまとめ	川﨑
	15	代謝と体温①	栄養素	川﨑
	16	代謝と体温②	エネルギー代謝	川﨑
	17	代謝と体温③	体温	川﨑
	18	生殖と発生・成長と老化①	男性生殖機能、女性生殖機能	川﨑
	19	生殖と発生・成長と老化②	受精、着床、胎児の発生、成長と老化	川﨑
	20	運動生理①	筋力と筋持久力	川﨑
	21	運動生理②	筋収縮のエネルギー源	川﨑
	22	運動生理③	運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化	川﨑
	補	後半のまとめ	第13章～第16章のまとめ	川﨑
	23	まとめと評価	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みの理解	川﨑

教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 病気がみえる Vol.7 脳・神経 病気がみえる Vol.2 循環 病気がみえる Vol.4 呼吸器 ぬりえで学ぶヒトのからだ など
授業に必要な物	ルーズリーフおよびノートなど(板書しますので、書き取れるものを準備しておくこと)、状況に応じてお伝えします
備考	

【科目名】	基礎運動学	専門基礎分野(2単位)	【講師名】	高村 真司 (理学療法士):医療機関にて13年実務経験 熊谷 拓未 (理学療法士):医療機関にて5年実務経験
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第 1 学年　理学療法学科
【時間数】	45時間　(2時間 23回)		【時間帯】	(他時間割参照)

授業 内容・目標	身体運動の基礎構造と運動、メカニズムに関する基礎知識を習得し、理解することが出来る。
前提知識	各解剖学(骨・筋)の基礎知識 現時点までの生理学の基礎知識
【実施形態】	講義(○)　　演習(　　)　　実習(　　)
到達目標	身体運動の基礎構造と運動、メカニズムに関する基礎知識の習得

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期	平時	当科目終了時				
	補足	質疑応答など	基礎知識など				
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
	実践・表現	○					

授業計画

	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	運動学の概要	基礎運動学、身体運動、運動の発現	高村
	2	骨・関節・骨格筋①	生体力学、運動学、身体運動の面と軸、ベクトル、モーメント	高村
	3	上肢帯の構造と運動①	関節の構造と機能、骨格筋の構造と機能	高村
	4	上肢帯の構造と運動②	各関節の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	5	肩関節の構造と運動①	肩関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	6	肩関節の構造と運動②	肘・手関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	7	肩関節の構造と運動③	各関節の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	8	肘関節・前腕の構造と運動① 手関節の構造と運動	各関節の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	9	肘関節・前腕の構造と運動② 手関節の構造と運動	股関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	10	下肢帯の構造と運動①	股関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	11	下肢帯の構造と運動②	膝関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	12	股関節の構造と運動①	膝関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	13	股関節の構造と運動②	足関節の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	14	股関節の構造と運動③	足関節の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	15	膝関節の構造と運動①	頸部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	16	膝関節の構造と運動②	頸部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	17	膝関節の構造と運動③	胸部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	18	足関節の構造と運動① 足部の構造と運動(遠隔授業)	胸部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	19	足関節の構造と運動② 足部の構造と運動(遠隔授業)	腰部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	20	運動学の基礎力学①(遠隔授業)	腰部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	21	運動学の基礎力学②(遠隔授業)	頭部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	22	運動学の基礎力学③(遠隔授業)	頭部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村
	23	まとめと評価		科目担当

教科書 参考書	基礎運動学　第6版　補訂　中村隆一ほか　医歯薬出版
授業に必要な物	座学ではPC、プロジェクターを準備する。 実技・演習では動きやすい格好をしてくること。
備考	わからない事があった場合は、可能な限り早めに質問をし、理解をしながら進めていくよう心掛けること。

【科目名】	病理学	専門基礎分野(1単位)	【講師名】	三木 康宏 笹野 公伸(医師)
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第 1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	9:00～10:30 (他時間割参照)

授業 内容・目標	病気の成り立ち、病気の原因と身体の変化について理解する
前提知識	
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	病気の成り立ち、病気の原因と身体の変化について理解する

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		当科目終了後				
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解	○	○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現	○					

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	病理学とは	笹原教授による講義	笹野
	2	病因論	総論	三木
	3	退行性病変	細胞死、委縮	三木
	4	進行性病変	肥大/過形成、再生/化生	三木
	5	創傷治癒	創傷治癒の様式	三木
	6	感染症と炎症	感染症、炎症	三木
	7	急性炎症と慢性炎症	炎症	三木
	8	免疫	概論	三木
	9	免疫	アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症	三木
	10	腫瘍	良性腫瘍と悪性腫瘍	三木
	11	腫瘍	転移	三木
	12	循環障害	局所	三木
	13	循環障害	全身	三木
	14	遺伝性疾患	遺伝病	三木
	15	まとめと評価	まとめと評価	三木

教科書 参考書	シンプル病理学 改訂第7版 (笹野公伸ら編集、南江堂)
授業に必要な物	プロジェクター(PC連動・OHP・スライド)・その他
備考	特になし

【科目名】	臨床心理学	専門基礎分野(1単位)	【講師名】	長谷川 涼子
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第 1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	10:40～12:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	人生の発達過程の誕生から死で起きる様々なイベントを理解し問題やつまづきが生じた際のアセスメントと援助を学ぶ。
前提知識	
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	全人的な視点で行うチーム医学を理解する。

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		当科目終了後				
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解	○	○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現	○					

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	オリエンテーション	臨床心理とは	長谷川
	2	ストレスの不思議	ストレスについて	長谷川
	3	心理アセスメントと心理検査	心理アセスメントとは	長谷川
	4	心理療法①	心理カウンセリング・心理療法①	長谷川
	5	心理療法②	心理カウンセリング・心理療法②	長谷川
	6	ディスカッション	出生前診断	長谷川
	7	赤ちゃんの不思議	胎児と乳幼児	長谷川
	8	子どもをとりまく問題	乳幼児期の発達課題	長谷川
	9	思春期・青年期の発達課題	青年期の発達課題	長谷川
	10	成人期の発達課題	成人期の発達課題	長谷川
	11	ディスカッション	独居老人	長谷川
	12	高齢期をとりまく問題	高齢期の発達障害	長谷川
	13	ディスカッション	がん告知	長谷川
	14	死の臨床	生と死	長谷川
	15	まとめと評価	まとめと評価	長谷川

教科書 参考書	「ポテンシャル臨床心理学」 横田正夫編者 サイエンス社
授業に必要な物	プロジェクター(PC連動・OHP・スライド)・その他
備考	特になし

【科目名】	公衆衛生学	基礎分野(1単位)	【講師名】 吉田 眞紀子
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】 第1 学年 理学療法学科
【時間数】	15時間 (2時間 8回)		【時間帯】 9:00～12:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	公衆衛生を理解し、社会におけるリハビリテーションのあり方を学ぶ
前提知識	
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )
到達目標	公衆衛生を理解する

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)				100		
	実施時期				当科目終了後		
	補足						
	関心・意欲				○		
	知識・理解				○		
	思考・推論				○		
	実践・表現				○		

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	公衆衛生のエッセンス	公衆衛生とは	吉田
	2	公衆衛生の活動対象	生活と健康に関係する社会集団	吉田
	3	公衆衛生のしくみ	政策展開	吉田
	4	環境と健康	地球規模の環境と健康	吉田
	5	国際保健	世界との出会い	吉田
	6	疫学	集団の健康をとらえるための手法	吉田
	7	地域保健	各種保健、難病支援・障害支援、感染症対策	吉田
	8	健康危機管理・災害保健	健康危機管理、災害保健	吉田
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

教科書 参考書	医学書院 系看 専門基礎 公衆衛生
授業に必要な物	必要に応じて連絡。準備担当者をはじめ、各自事前に確認をすること。
備考	時間を守る、連絡を怠らないなど、基本的な振る舞いの上に技術が成り立つことををふまえ、取り組むこと。

【科目名】	リハビリテーション医学	専門基礎分野(2単位)	【講師名】 水尻 強志(医師) 吉田 望(理学療法士):医療機関にて25年実務経験
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】 第 1学年 理学療法学科 作業療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 9:00～10:30 10:40～12:10 (他時間割参照)
授業 内容・目標	リハビリテーション医学が現在の日本においてどのような役割を担っているのかを理解する リハビリテーション医学の考え方を学ぶ 老年医学について学ぶ		
前提知識	前期に学習した解剖・運動・生理学の知識を復習しておくこと		
【実施形態】	講義(○) 演習( ) 実習( )		
到達目標	・リハビリテーションの適応となる疾患について理解する事ができる ・高齢者特有の疾患や病態について理解し、リハビリテーションとの関連を理解する事ができる		

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		9回・最終回				
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
	実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	リハビリテーション医学総論	高齢社会と高齢者医療	水尻先生
	2	リハビリテーション医学総論	生活機能と障害	水尻先生
	3	リハビリテーション医学総論	廃用症候群と運動学習	水尻先生
	4	リハビリテーション医学総論	中枢神経の評価	水尻先生
	5	中枢神経障害の評価・嚥下障害・医療倫理	中枢神経の評価	水尻先生
	6	中枢神経障害の評価・嚥下障害・医療倫理	超高齢社会における医療倫理の諸課題 嚥下障害	水尻先生
	7	神経筋疾患・末梢神経障害・小児疾患・内部障害	神経筋疾患、末梢神経障害	水尻先生
	8	神経筋疾患・末梢神経障害・小児疾患・内部障害	小児疾患、内部疾患	水尻先生
	9	前半のまとめ	水尻先生分のまとめと評価	吉田
	10	老年医学	加齢による身体変化・精神的変化	吉田
	11	老年医学	加齢による身体変化・精神的変化	吉田
	12	老年医学	高齢者特有の疾患	吉田
	13	運動学習	高齢者特有の疾患	吉田
	14	運動学習	学習と記憶、運動技能とパフォーマンス	吉田
	15	運動学習	練習と訓練(動機付け、練習の効果、学習の転移)	吉田
	補	後半のまとめ	吉田分のまとめと評価	吉田

教科書 参考書	
授業に必要な物	
備考	

【科目名】	運動療法総論Ⅱ	専門分野 1単位	【講師名】 佐藤 大樹(理学療法士):医療機関にて7年実務経験 熊谷 拓未(理学療法士):医療機関にて5年実務経験
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】 第 1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 10:40～12:10 (他時間割参照)
授業内容・目標	理学療法に関する概念、運動療法の学問的基礎及び対象となる障害について学び、今後の学習への準備をする。日常生活で用いられる基本動作の誘導・介助法を学び、その中から医療専門職としての倫理観や理学療法士としての専門意識を育成する。一般的に用いられているストレッチングや筋力強化トレーニングなど自動的運動療法を学問的・理論的に捉え、自ら体験しながら学習し理解する。		
前提知識	入学時からの解剖学・生理学の知識。 人の身体機能への興味。		
【実施形態】	講義( ) 演習(○) 実習( )		
到達目標	健常人に対しての基礎的な運動療法を理解出来る。 関節の構造や、人の様々な動きについて観察することが出来る。		

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	70		30		
	実施時期	平時	当科目終了時		歩行について		
	補足	質疑応答・出席など					
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○		○		
	思考・推論				○		
	実践・表現	○					

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	バランスの獲得・改善	姿勢保持について	佐藤
	2	バランスの獲得・改善	運動出力系について (もしバランスが崩れそうになったらどうする)	佐藤
	3	姿勢の改善	良い姿勢とは？	佐藤
	4	姿勢の改善	ポジショニングと安楽性	佐藤
	5	協調性の改善	姿勢定位とは？	佐藤
	6	リスク管理について	リスク管理とは？	佐藤
	7	基本動作の獲得・改善	基本動作とは？(寝返り、起き上り、立ち上がりについて)	佐藤
	8	歩行の獲得・改善	歩行についての基礎知識	佐藤
	9	歩行の獲得・改善	歩行についての基礎知識	佐藤
	10	歩行の獲得・改善	歩行についての基礎知識	佐藤
	11	歩行の獲得・改善	歩行についての基礎知識	佐藤
	12	歩行の獲得・改善	歩行の動画を見て、歩行観察	佐藤
	13	歩行の獲得・改善	歩行の動画を見て、歩行観察	佐藤
	14	歩行の獲得・改善	歩行の動画を見て、歩行観察	佐藤
	15	まとめと評価		佐藤

教科書等	理学療法学 ゴールドマスターテキスト 運動療法学
授業に必要な物	動きやすい格好
備考	

【科目名】	運動療法各論Ⅱ(演習)	専門分野 2単位	【講師名】 熊谷 拓未(理学療法士):医療機関にて5年実務経験 山口 倫生(理学療法士):医療機関にて12年実務経験
【講義期間】	1年次前期		【対象学生 第 1学年 理学療法学科
【時間数】	45時間 (2時間 23回)		【時間帯】 9:00～10:30 10:40～12:10 (他時間割参照)

授業内容・目標	運動療法の基礎知識及び技術について理解し、実践出来るよう育成する。また、学んだ知識・技術を疾患に対して実施するための方法について考える力を身に付ける。加え、日常生活で用いられる基本動作の誘導・介助法を学び、疾患に対して応用する力を体験しながら学習し、理解する。
前提知識	解剖学・生理学の知識。 実技における注意・配慮する点の知識と技術。
【実施形態】	講義( ) 演習(○) 実習( )
到達目標	健常人に対しての基礎的な運動療法を理解・実践出来る。 問題点に対し、実践するための思考が出来る。 関節の構造や、人の様々な動きについて観察・対応することが出来る。

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	50		10	30	
	実施時期	平時	当科目終了時		随時	随時	
	補足	質疑応答・出席など					
	関心・意欲	○	○		○	○	
	知識・理解		○		○		
	思考・推論		○			○	
	実践・表現	○	○		○	○	

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	解剖・生理学の基礎知識の確認	骨、関節、筋、靭帯、関節包内運動	熊谷
	2			
	3	オリエンテーション	文献の使用方法、発表の仕方、資料の作成方法および実践	熊谷
	4			
	5	各疾患について①		熊谷
	6			
	7	各疾患について②		熊谷
	8			
	9	各疾患について③		熊谷
	10			
	11	各疾患についての整理②	拘縮、骨折、変形性関節症、靭帯損傷の各概要ならびに運動療法	熊谷
	12			
	13	各疾患についての整理③	肩関節周囲炎、腰痛、腰椎ヘルニア、関節リウマチの概要ならびに運動療法	山口
	14			
	15	各疾患についての整理④	脳血管疾患、脊髄小脳変性症、パーキンソン病の概要ならびに運動療法	山口
	16			
	17	評価と考察①	四肢長周径、関節可動域、徒手筋力測定法の評価と考察および実践	山口
	18	評価と考察②	四肢長周径、関節可動域、徒手筋力測定法の評価と考察および実践	山口
	19	介助方法①	立ち上がり、移乗、歩行、ADL動作の介助方法	山口
	20			
	21	介助方法②		山口
	22			
	23	まとめと評価		山口

教科書 参考書	理学療法学ゴールドマスターテキスト ② 運動療法学 編集 柳澤 健 メジカルビュー社
授業に必要な物	指示があった場合は動きやすい服装、PC、プロジェクター等の準備
備考	練習時間は限られていますので、時間外での積極的な練習等を行うことが望ましい。

【科目名】	理学療法評価法Ⅱ	専門分野 (2単位)	【講師名】 山口 倫生(理学療法士):医療機関にて12年実務経験 熊谷 拓未(理学療法士):医療機関にて5年実務経験
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科
【時間数】	45時間 (2時間 23回)		【時間帯】 9:00～10:30 10:40～12:10(他時間割参照)
授業内容・目標	運動の始まり(随意運動)の始まりから筋収縮(興奮収縮連関)までを学び、筋力の構成要素について理解する。理学療法評価の一つである徒手筋力検査の意義、原理を理解し、知識の構築を行っていく。また、実技を通じて、身体の運動を観察・感じながら、技術を習得を目指す。検査結果からADLでどのような影響が起こるかを分析・想定出来るようにする。		
前提知識	各解剖学(骨・筋)の基礎知識		
【実施形態】	講義(○) 演習(○) 実習( )		
到達目標	徒手筋力測定法を正確に実施出来る技術の習得 実施する際の説明や配慮等のコミュニケーション能力の習得 実施する際のリスク管理能力の習得		

成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	30	60			
	実施時期	平時	当科目終了時	当科目終了時			
	補足	質疑応答など	基礎知識など	リスク管理など			
	関心・意欲	○	○	○			
	知識・理解		○	○			
	思考・推論		○	○			
	実践・表現	○		○			

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	MMT(徒手筋力検査法)について①	抗抵抗自動運動テスト、抑止テスト	山口
	2	MMT(徒手筋力検査法)について②	評価基準、抵抗の掛け方、妥当性	山口
	3	下肢の筋力検査①	股関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	山口
	4	下肢の筋力検査②	股関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	山口
	5	下肢の筋力検査③	股関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施③	山口
	6	下肢の筋力検査④	膝関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	山口
	7	下肢の筋力検査⑤	膝関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	山口
	8	下肢の筋力検査⑥	足関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	山口
	9	下肢の筋力検査⑦	足関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	山口
	10	下肢の筋力検査 確認		山口
	11	体幹・頸部の筋力検査①	体幹・頸部周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	山口
	12	体幹・頸部の筋力検査②	体幹・頸部周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	山口
	13	体幹・頸部の筋力検査 確認		熊谷
	14	上肢の筋力検査①	肩甲帯周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	熊谷
	15	上肢の筋力検査②	肩甲帯周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	熊谷
	16	上肢の筋力検査③	肩関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	熊谷
	17	上肢の筋力検査④	肩関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	熊谷
	18	上肢の筋力検査⑤	肘関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施	熊谷
	19	上肢の筋力検査 確認	手関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施	熊谷
	20	実技確認と復習①	下肢周囲筋の実施方法の再確認と注意点の復習	熊谷
	21	実技確認と復習②	上肢周囲筋の実施方法の再確認と注意点の復習	熊谷
	22	実技確認と復習③	体幹周囲筋の実施方法の再確認と注意点の復習	熊谷
	23	まとめと評価		熊谷

教科書 参考書	理学療法評価学 改訂第4版 著 松澤 正/江口 勝彦 金原出版株式会社 新・徒手筋力検査法 原著第9版 著 Helen J.Hislop 他 株式会社協同医書出版社
授業に必要な物	実技・演習では動きやすい格好をしてくること。指示があった際には、ケーシー(白衣)を着用する事。
備考	授業で学習した実技に関しては、授業以外でも積極的に復習・練習を行う事が望ましい。